

高林白牛口二の謡を聴く会

第一部

対談

大谷 節子

高林白牛口二

第二部

卒都婆小町

高林白牛口二

放下僧

高林 昌司

龍田

高林白牛口二
小寺真佐人

大江山

高林 呻二

主催 高吟会

平成29年 11月22日(水) 午後6時始 十四世喜多六平太記念能楽堂(喜多能楽堂)

● 入場料(全席自由席) 全4,000均一

※当日、卒都婆小町の謡本を販売いたします。

● お問い合わせ

※チケットはお電話、メール、ホームページからご購入いただけます。

【高吟会】

E-mail : koginkai@ares.eonet.ne.jp

http://www.eonet.ne.jp/~koginkai/

TEL : 075-462-1490 FAX : 075-463-3494

〒603-8354 京都市北区等持院西町15

【喜多能楽堂ホームページ チケット購入ページ】

http://kita-noh.com/ticket/



〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9 TEL : 03-3491-8813

JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに
目黒駅下車徒歩7分

第76回 喜多流涌泉能

平成二十九年十一月二十二日(水)

動静以天地
視哉涌泉美

鈿之翁

第一部 午後六時始

成城大学教授

大谷 節子

対談

高林白牛口二

休憩(十五分)

第二部 午後七時始

一曲独吟

卒都婆小町

高林白牛口二

仕舞

放下僧

高林 昌司

一調

龍 田

高林白牛口二
小寺 真佐人

仕舞

大江山

高林 呻二

附祝言

終了予定 午後八時半

主催 喜多流 高吟会

老女物に取り組む

能に登場する人物には、人間、亡霊、化生、動物、想像上の物まで、あらゆる物が含まれています。その中から人間を取り上げてみましょう。人間には男女両性がありますが、今回は女性を考察してみようと思います。

一番若い女性は、子方です。齢の若い雲雀山から姉役の竹雪まで、喜多流では十曲が数えられます。成人すると、能面を着けます。若い齢の小面から始まり、次に母親の曲見(しゃくみ)を経て、老境の姥・老女となります。使用する能面の種類は、流儀によって好みが変わります。例えば喜多流では、若い女性に小面を使います。観世流は若女、宝生流は増女、金剛流では孫次郎と、好みに違いがあります。この好み違いは、全ての能面に云えます。この違いは、各流儀の舞台上の主張に由来しますので、今回はここまでにして、話を本論に移します。

世阿弥は能の基礎を論じるのに、老・女・軍の三体と云っています。中でも老体を、最高位に考えていると思われれます。現実に老体を代表する老女物を手懸けると、その世阿弥の想いが、その秘している意味合いが、ひしひしと身に沁みて感じられます。

老女物を会得するには、何が必要でしょうか。私は八十年の経験から、次のように感じました。昔から老女物は他人に習う物ではないと、言い伝えられています。これは何を、意味しているのでしょうか。長い人生を舞台上で過ごして来れば、特別な工夫をせずとも、自然に身に憑いた物が、身体の内部から沁み出て、老体の表現が出来るのです。全身から力みを捨て去り、体内の中核の一部以外を柔和にします。手足も唇も全てから余分な力みが捨て去った時、老体が完成するのです。

老女物を謡うにも、この意識が必要なのです。

高林白牛口二

次回予告(通常公演)

平成三十年 四月七日(土) 午後一時始

於 京都 大江能楽堂

曲目未定